Center for Redevelopment of Pollution-damaged Areas in JAPAN

Libella

No.114
（隔月1日、年6回発行）

2010年
5月

シロベエ

「緑の募金にご協力くださ～い！」

4月18日、大和田の関西スーパーで緑の募金を訴えました。参加したのは、区内で「菜の花プロジェクト」に賛同する西淀川高校、淀中学校の生徒と先生、カブスカウト、あおぞら財団のメンバー。この日は、はるばる北極からシロクマのシロベエ（地球温暖化防止キャンペーン実行委員長）も応援に駆けつけました。募金者には、菜の花の種や廃油回収をよびかけるチラシを配布しました。同日並行して、阪神電車姫島駅では、ガールスカウト26団が募金しました。

同日午後、西淀川高校は同校で栽培している菜の花の見学会をかねた環境教育フェスタを開催。その中で廃食油を回収してバスの燃料として再利用を呼びかけるキャンペーン紙芝居「さあはじめよう」（4、5面紹介記事）を披露しました。

●目次

特集　地域で取り組む環境学習

あおぞら財団会員のつどい2010	小平　智子	2
菜の花プロジェクトの紙芝居&絵本	林　美帆	4
西淀川菜の花プロジェクト　廃食油回収のとりくみ	小平　智子	5
フードマイレージ買物ゲームが京都にも上陸	西澤　浩美	7
『大阪版フードマイレージ買物ゲーム』が完成しました	田中　利男	
環境フォーラム	森井　隆二	9
矢倉海岸探鳥会の10年	上田　敏幸	6
中国･上海での住民自身の手による公害被害報告	除本　理史、相川　泰	8
〈リレーエッセー〉傾聴ボランティア	小坂　茂樹	10
〈忙中一筆〉あったかい交流の場	土橋　成敏	12

特集　地域で取り組む環境学習

あおぞら財団の「環境学習」は、他の団体や個人と連携することで活動の輪を拡げています。活動に参加をする「みんな」のアイデアや思いが混ざり合い、たくさんの取り組みが生まれています。

子どもの参画べんきょう会（子どもたちの環境調査）

山本　康子さん（ガールスカウト大阪支部26団）

西淀川の自然観察で、地域の自然の違いに気づく

ガールスカウトの掟と約束として、「自己開発」「人とのかかわり」「自然とともに」の3つがあります。

この活動では、ガールスカウトの中だけではなく、学童保育所等の子どもたちや大人たちなど他の人と活動をすることで、学校や家庭と違った人とのかかわりを学ぶことができました。道で出会っても挨拶できるようになりました。

西淀川でのタンポポ調べやセミのぬけがら調べなどを通じて、山へキャンプなどに行ったときに地域による自然の違いに気づいていたようです。

会員のつどい2010
地域で取り組む環境学習

あおぞら財団の1年間の活動をふりかえり、すすむべき方向をみんなで確認・共有するために、2008年より開催している「あおぞら財団会員のつどい」。今年は3月18日（土）にあおぞらビルで開催しました。「地域でとりくむ環境学習」テーマに、30人が語り合いました。

前半は「私たちの思いと活動～2009年度活動報告～」と題して5つのプロジェクトを7人が報告しました。熱い思いの報告の一部分を紹介します。

後半は、「みんなでやろう　地域ですすめる環境学習」と題して参加者全員で意見交換会。環境学習の話だけではなく、「あおぞらビルの入口をもっと明るい雰囲気に」といった具体的な提案まで、幅広い意見がでました。（写真）

環境を良くするために行動したいという人たちのおもいをつなげたり、活動の輪を支えていくこともあおぞら財団の重要な役割です。みんなの思いをつなげることで、大きな力になっていくことを今回の会員のつどいを通じて確認できたと感じています。

（小平智子：あおぞら財団研究員）

西淀川ESD

伊藤　司さん（大阪市立淀中学校教諭）

教室では学べないことを学ぶ

2008年7月から、中学生が菜の花栽培や畑作業等に取り組んでいます。去年、子どもたち自身から、「自分たちでも回収をしたい」と言い出して、廃食油回収もはじめました。他の中学校にもひろめるため、生徒たちが区内の中学校に取り組みをよびかける手紙も書きました。

①回収した油がバスに使われ実際に走ったり菜の花を栽培したり、実感が伴う環境学習であること

②小学生、中学生、高校生、大学生、地域の人…異年齢の人たちが、同じ目的で活動をしていること

教室で学べないことを学べるこの2点が、活動の特徴です。

フードマイレージ教材化研究会

平尾真理子さん（大阪市立川北小学校教諭）

「★がいっぱいは、あかんねんなぁ」ゲームで実感し、子どもは学ぶ

一番最初にフードマイレージの教材を知った時、子どもには難しいと感じ、子どもバージョンをつくるお手伝いにかかわりました。完成した子どもバージョンを使って6年生の授業をしましたが、楽しく取り組んでいました。「★がいっぱいだと、ええと思ったがあかんかってんなぁ」など、そういう実感を通じて子どもは学んでいきます。

どんどん教材は進化していっています。

報告者の暑い思いが伝わって…

ECOまちネットワーク・よどがわ

一柳　正義さん（ECOまちネットワーク・よどがわ会長）
柏原　誠さん（大阪経済大学地域活性化支援センター・センター長、大阪経済大学講師）

大阪市初・市民出資で太陽光発電を設置
大学が、社会を動かす力に

ECOまちネットワーク・よどがわは、大阪経済大学の地域活性化センターが事務局をしている活動です。私は地域の連合町会長をしていたこともあり参加をしました。大学の先生や、あおぞら財団、市民生協、地域住民の私など、様々な人や団体が活動をしています。昨年大阪市で初めての市民出資の太陽光発電所のパネルを、東淀川区の特別養護老人ホームの屋上にとりつけました。国や関西電力、大阪市からの助成も受けていますが、残りは市民によびかけ寄付でまかないます。

大阪は、梅田中心にありますが、江戸時代には今の淀川三区を農民が手を結び中島大水道を掘りぬいたという歴史を持ちます。現代の地球環境という問題も歴史に学び地域で手をとり活動をしなくてはいけないと思っています。（一柳）

２００６～８年、文部科学省の現代GPの取り組みで、体験型環境まちづくり教育として、地球環境問題を地域の人たちとパートナーシップで取り組もうというねらいではじめました。調査をし、提案をし、大学も社会を動かす力になれたらと考えています。現代GPに参加をした学生が、西淀川ESDの活動にも参加をしています。異年令で接することが、大学生にとっても、刺激になっていると感じています。（柏原）

緑陰道路サロン（旧：大野川緑陰道路の教材作り研究会）

西口　勲さん（元大阪市立西淀中学校教諭）
天野　憲一郎さん（元大阪市立姫里小学校教諭）

ゲストティーチャーで西淀川公害を伝える
身の回りの環境を考える機会をつくらなければ子どもは知らないまま過ごしてしまう

西淀川で働いていた先生を中心にとりくんでいます。四大公害は教科書には載っていますが、西淀川公害はでていません。区内の小学校でゲストティーチャーとして作成した西淀川公害を伝える教材を使って授業をしています。大野川緑陰道路の自然や歴史を伝える勉強会、緑陰道路サロンも次回で９回目になります。大野川緑陰道路は、今の東淀川、淀川、西淀川三区をつらぬいて江戸時代の農民がほりぬいた「中島大水道」の流路ですが、江戸時代、中島大水道をつくった農民たちのリーダーだった庄屋のご子孫、一柳正義氏に次回はお話をしてもらいます。（天野）

公害のひどかった１９６１年から80年の19年間、西淀川の歌島中学校で教師をしていました。そのころ大野川はメタンガスで臭く、夏でも窓もあけられない状態。環境悪化を危惧し高速道路建設に反対する市民の運動でつくられた大野川緑陰道路で自然観察ができることをうれしく思います。

地域の歴史等を伝える小学生向けの社会科の副読本もなくなり学校の勉強では教師が投げ込みでとりくまないと学校の勉強で西淀川公害の授業も難しくなりました。公害も見えにくくなっています。大人たちが、五体を使って身の回りの環境はこれでよいのか考える機会を子どもたちに作らないと、子どもたちは全然知らないまま過ごしてしまうのではないかと危惧しています。（西口）

菜の花プロジェクトの紙芝居&絵本ができました

林　美帆

西淀川菜の花プロジェクト

西淀川菜の花プロジェクトは２００７年からＥＳＤの活動の一環として取り組んできました。小・中・高・大学が連携をして交流しながら行うのが特徴的です。２００９年度は廃油回収に力を入れて、菜の花プロジェクトの輪を広げていきたいと願っていましたが「平成21年度ＢＤＦ普及モデル事業」に選ばれて、紙芝居と絵本を作ることとなりました。

みんなの意見を取り入れる

ＥＳＤ（Education for Sustainable Development）とは、様々な人とつながり、持続可能な地域を作るための教育です。西淀川菜の花プロジェクトはＥＳＤをベースとして活動しているため、この紙芝居も活動に参加している子どもたちや学生、先生方の意見を取り入れて作製しました。

２００９年12月26日にワークショップを開催し身の回りの環境で気になっていることや、自分たちにできること、将来どんな未来であってほしいかなど、意見を書き出して発表しました。ＥＳＤでコミュニケーション力を鍛えられた子ども達は、世代が違っても話し合うことができます。「ＢＤＦで走るバスを増やしたい」「まちづくりに参加してきれいな町にしたい」「仲間を増やしたい」「空気がきれいになってほしい」などなど、たくさんの意見が出ましたが、それを元に西淀川高校の米田浩之先生がシナリオを考え、デザイナーの増田純子さんが絵を描くことになりました。

1月23日にはワークショップに参加した子どもたちに紙芝居をお披露目して、ストーリーや絵について意見をもらい、2月7日に開催した環境フォーラムで完成品を上演しました。（後に同じストーリーで絵本も作成しました）

つぶやき　紙芝居がほしいなぁ

「菜の花プロジェクトの説明は難しいなぁ」

「紙芝居とか絵本があれば、子ども達でも菜の花プロジェクトを簡単に説明できるのになぁ」

作業がとても楽しい

みんなの意見をどんどん出して、そのアイデアをつなげてデザインに落とし込んでいく作業がとても楽しかったです。先生やえらい人の視点ではなくて、普通の人の着眼点や使う人の意見でつくるという行程が面白かったです。こういう方法で物を作るのはいいシステムだと思います。紙芝居も視覚的にアプローチする良いツールだと思います。

（増田純子・絵担当）

自分が思った以上の出来

紙芝居の内容と同じく、力を合わせて作成することで自分が思った以上のものを作ることができました。完成したものはきれいでかわいいので、多くの人に見てもらいたいです。

（米田浩之・シナリオ担当）

おもしろい紙芝居に

紙芝居の作成には「伝えたいメッセージ」だけでなく、紙芝居を見ている人が楽しく、その気にさせるストーリーと絵が重要となってきます。そのためには教訓くさくなく、説明ばかりにならないようにしたいと願い、議論を重ねました。

この紙芝居と絵本、西淀川だけでなく、全国で使えるものになったと自負しています。インターネットで公開していますので、ぜひご覧ください。そして上演してほしい方がいれば声をかけてくださいね。

（はやし・みほ　あおぞら財団研究員）

〈ストーリー〉

なの子ちゃんが猫とスズメとちょうちょと一緒に素敵な青バスに乗りました。青バスの排ガスはいやなにおいがしません。青バスは天ぷら油を飲んでいるので、においがないのです。一方、赤バスは石油を飲んでいるので臭い煙を出します。なの子ちゃんは赤バスのために天ぷら油を集めることにしました。そこで…

続きはこちら「さあはじめよう」菜の花プロジェクト絵本

http://www.aozora.or.jp/manabu/nanohana.htm#ehon

地域でつくる 資源循環型社会

西淀川菜の花プロジェクト 廃食油回収のとりくみ

みなさんは家で揚げ物をした後の油はどうしていますか。捨てないで回収し、精製することで車を走らせる燃料「バイオディーゼル燃料（BDF）」として再利用することがます。2009年度、西淀川はBDF利用・回収を地域ですすめるための環境省モデル地域として廃食油回収に取り組んできました。回収ステーションを知らせる旗をつくったり、子どもたちと紙芝居をワークショップで考えたり（詳しくは4頁）、エルモ西淀川で環境フォーラム（2／7）を開催したり、取り組みを進める中ではじめは4か所だった廃食油回収ステーションが、区内外に拡がり現在は16か所となりました。廃食油も1年間で1500ℓ回収することができました。

この活動の母体は西淀川ESDです。平成19～20年度、西淀川は環境省持続可能な開発のための教育の10年（ESD）のモデル地域となりました。西淀川高校が取り組む菜の花プロジェクトを西淀川ESD全体で盛り上げようということではじまりました。小学生から大人までみんなでとりくむことの楽しさが活動の原動力となっています。捨てる油を回収することが、ゴミを減らしたり海を汚したりするだけではなく、環境問題を考え実践することにもつながります。あおぞらビルにも回収ステーションの旗をたててから、旗を見たたくさんの人たちが油を持ってきてくれました。油を持ってきてくれたことがきっかけで財団のボランティアの日に活動したり、回収ステーションとして協力したいと声をかけてくれた団体と知り合うことができたり、新たなつながりも生まれています。

回収ステーションののぼり

廃食油のBDFとしての利用には、コストや使い道などまだまだ課題もありますが、勉強しながら取り組みをすすめていきたいと思います。

廃食油は【表】の団体で回収をしています。廃食油回収ステーションも随時募集をしています。興味のある方はぜひあおぞら財団まで声をかけてください。

（小平智子：あおぞら財団）

表：廃食油回収ステーション
（回収を希望する人はまずはあおぞら財団までお声掛けください）

西淀川高校	西淀川区出来島
淀中学校	西淀川区大和田
西淀川子どもセンター	西淀川区御幣島
みどり保育園	西淀川区姫里
なかよし学童保育所	西淀川区柏里
木村洋服店	淀川区
濱田たばこ店	西淀川区佃
西栄寺	西淀川区御幣島
訪問介護ステーション げんきな郷	西淀川区佃
プラザ歌島	西淀川区歌島
ASA 御幣島	西淀川区御幣島
Café Slow Osaka	淀川区
山本工務店	東淀川区
Café seeds プラス	福島区
NPO 法人自由空間倶楽部	東淀川区
あおぞら財団	西淀川区千舟

矢倉海岸探鳥会の10年

上田　敏幸

１７００万人の命を支える母なる川・淀川は、野鳥をはじめとする生き物の重要な生息地である。この淀川で定例探鳥会をしてきた「日本野鳥の会大阪支部」の橋本正弘さんから、「矢倉海岸でいっしょに探鳥会をやりませんか」とお誘いを受けたのが２０００年春。月１回の野鳥観察を通して西淀川の自然環境に触れる機会を共有しようとの提案を喜んで受け容れた。

ミサゴに会うと、ホッ

あれから10年、月１回の観察会は１００回を超える。この間観察した野鳥は１１５種にのぼり、毎回20～40種の鳥たちに出会うことが出来る。「鳥屋さん」と呼ばれる達人たちに混じって、スズメとツバメぐらいしか知らない門外漢の私の観察行は最初は、達人が指さした目標に双眼鏡のピントを合わすのもままならず、フィールドスコープをのぞいても入っている鳥が見つけられなかった。それでも、回を重ねるにつれて、春が来るとシギ、チドリ、冬にはガン、カモ、送電線の鉄塔からいつも川面を見渡しているミサゴに会うと、ホッとするようになった。

公害が消えて鳥たちが戻ってきた

ところで、探鳥会の出発点・阪神電車西大阪線（当時）福駅は、数少ない階段のない駅で、地上からホームはスロープでつながっている。１９６０年代～７０年代にかけて、この駅に降り立つと、隣接する日本化学、国道43号を挟んで海側にある合同製鐵や古河機械金属の悪臭・煤煙・亜硫酸ガスが襲いかかった。アサガオが一夜で枯れ、セミの声が消え、鳥たちがいなくなり、そして多くの人間が呼吸器の病気になった。そして30年、命を代償にした公害被害者たちの運動、行政、企業が一体となった努力の積み重ねが、「日本一」といわれた西淀川の大気汚染を劇的に改善した。それにいち早く気づいたのは、おそらく鳥たちだったに違いない。

小規模だがユニークな干潟

淀川と神崎川が海と出会う「矢倉」で10年前にスタートした探鳥会は、公害でダメージを受けた西淀川の自然が持つ復元力を野鳥を通して人々が確認する営みだった。

鳥たちが戻って来るには、豊富なえさ場が必要だ。「矢倉」はその点でも条件が良かった。かつては工場があった土地は、台風で工場が倒壊、煙突だけが残る荒れ地として長年放置された。鳥たちがいやがる人の目が遠ざけられ、神崎川河口に護岸のためつくった導流堤との間に土砂が堆積して小さな干潟が出来た。「小規模ですがなかなかユニークな干潟」（山西良平・大阪市立自然史博物館館長）には、汽水域に生息する、カワザンショウガイ、イシマキガイ、アシハラガニ、ハクセンシオマネキ（準絶滅危惧種）が生息している。そして、ハクセンシオマネキを好んで食べるホウロクシギも飛来している。いまでは、「矢倉」が都市近郊にあって豊かな生態系をもつ貴重な場所になっている。

第 104 回矢倉海岸探鳥会（2010 年４月３日）

矢倉干潟の国際的役割

野鳥の会のみなさんと取り組んできた探鳥会は、市民が将来にわたって受け継ぎたい西淀川の原風景のひとつ、矢倉海岸の「値打ち」を明らかにする１０年でもあった。

前出の橋本さんは言う。

「ここはまたシギチドリという旅鳥がカニ類、ゴカイなどの底生動物を採餌する場でもあり、休息の場でもあります。私たちの調査でも14種以上のシギチドリを観察しています。大阪湾では広大な干潟が広がっていましたが高度経済成長とともに開発され、東京湾の谷津干潟や三番瀬、名古屋湾の藤前干潟に匹敵するような重要な干潟もなく僅かに南港野鳥園や男里川河口、大津川河口この矢倉海岸の干潟で、狭い面積で残っている程度です。シギチドリは南北に渡る旅鳥です。夏の繁殖の時期はシベリア北部、カムチャッカやアラスカまで北上します。雛がたつと南下し、日本に8，9月立ち寄り、フィリピン、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランドまで渡り越冬し、春4，5月北上の途中日本にまたやって来るのです。このシギチドリの保護保全のためにも干潟がとりわけ国際的にも大切で、矢倉の干潟も重要な役割を果たしています」。

これからの10年

次の10年は、この10年で明らかになった「矢倉」とその周辺の自然環境の価値と役割を多くの区民と共有できるよう活動を広げなければならない。探鳥会や矢倉海岸の自然に触れる様々な活動を、関心を寄せる多くのみなさんといっしょに展開したい。そして、西淀川の環境再生のシンボルとして「矢倉」が保全・活用されるよう、地道に活動を積み上げていきたいものだ。

（うえだ・としゆき　あおぞら財団）

フードマイレージ買物ゲームが京都にも上陸

呼び込みをするわけでもないのに、食材カードを並べたテーブルに自然に来場者が寄ってきます。「ふたつほど食材カードを選んで、その裏に書いてある星の数を見て下さい。この星は何を表すでしょう?」こんな質問を投げかけるところから、フードマイレージの紹介を始めます。これは、2009年11月21日・22日に開催された京都府環境フェスティバル・ブース出展で、完成したばかりの京都版フードマイレージ買物ゲームを披露したときの様子です。

京都版ゲームは、京都府地球温暖化防止活動推進員の研修の一環として、あおぞら財団林美帆さんを講師に迎え、受講した推進員とともに昨年作成したものです。京都版は、1970年と2008年の夏・冬版の4セットを作り、京野菜を食材カードに入れて地域性を出したことが特徴です。

2010年度は、京都府内の各地でイベントでの啓発以外にも子ども向けや一般向けの学習会を実施し、フードマイレージの考え方をさらに広めていく予定です。

（京都府地球温暖化防止活動推進センター　西澤浩美）

『大阪版 フードマイレージ買物ゲーム』が完成しました!

大阪府地球温暖化防止活動推進センター※では、府民に対する『温暖化防止啓発活動』を実施する為の教材として、2007年度から『食』をとおして『体験型』で『楽しく』温暖化対策を学ぶことが出来る『啓発プログラム』の作成を検討していました。

その時期に、「あおぞら財団（財団法人 公害地域再生センター）」の〝食と交通から環境を考える〟教材である『フードマイレージ買物ゲーム』と出会い、私たちが作成を検討していた啓発プログラムと趣旨を同じくすることから、あおぞら財団に協力をいただきながら、大阪版の『フードマイレージ買物ゲーム』を作成するに至りました。

大阪府には知事の委嘱を受けた『地球温暖化防止活動推進員』が350名程在籍しており、今後、地域での温暖化対策の推進のために、それらの方々のご協力をいただいて、『大阪版 フードマイレージ買物ゲーム』を活用した啓発活動を地域で展開し、温暖化対策の普及につなげて行きたいと考えています。

なお、教材の貸し出しにかかる費用は、指導者の派遣を併せて無料なので、是非ご活用下さい。

（大阪府地球温暖化防止活動推進センター　田中利男）

問い合せ先：
大阪府地球温暖化防止活動推進センター
center@osaka-midori.jp
田中、赤坂

※大阪府地球温暖化防止活動推進センターとは
1998年10月、国、地方公共団体、事業者、国民が地球温暖化の解決の為に果たすべき役割を定めた「地球温暖化対策の推進に関する法律」が制定され、2003年7月7日に、大阪府知事により（財）大阪府みどり公社が、府民・事業者・行政の連携による地球温暖化防止を推進するための拠点として指定された。

中国・上海での住民自身の手による公害被害調査

除本 理史
相川 泰

住民が被害調査を実施

本紙一〇七号と一一二号で、あおぞら財団による中国訪問（二〇〇九年二月、九月）の概要が紹介されている。訪問地の一つが上海市宝山区で、宝鋼集団の製鉄所（以下、単に製鉄所という）からの公害に関し、被害住民の中心的存在である許太生さんから聞き取りが行われた。

筆者のうち相川もその訪問に同行したが、二回目の訪問の直後（九月十七、二三日）、筆者両名を中心に重ねての調査を行い、許さんをはじめ九人の住民から直接、話を聞くことができた。そこでこの場をお借りし、筆者らの調査で得た知見を紹介したい。注目されるのは、被害住民が自らの手で、公害によると思われる健康障害について聞き取り調査をし、結果の取りまとめを行っていることである。

製鉄所と大気汚染

宝山区は上海市の北東部に位置し、都市化が進む一方、農村も広く残存する近郊である。製鉄所は、宝山区の月浦鎮という地区にある。製鉄所の敷地面積は広大で、月浦鎮の面積（五四平方キロメートル）の約四割を占める。

製鉄所は一九七八年以来、三期の工程を経て建設・拡張されてきた。その後も、二〇〇五年に第四高炉の生産開始、二〇〇七年に新たな熱延工場（「三熱軋」）の操業開始などがなされ、構内の生産設備は次第に増強されてきている。

多くの文献で、この製鉄所の省エネルギー、環境対策は進んでいるといわれる。しかし他方、月浦鎮の大気汚染について、粒子状物質による汚染が深刻で、製鉄所もそれに寄与しているとの指摘がある（中共上海市宝山区月浦鎮委員会・上海市宝山区月浦鎮人民政府編『月浦鎮志』上海社会科学院出版社）。二〇〇四年度の月浦鎮（一三観測点）の降塵量をみると、一九六〇年頃の尼崎市の降下煤塵量とほぼ同じである。しかし、二酸化硫黄などの大気中濃度のデータは入手できておらず、不明である。

筆者らが聞き取りを行った月浦鎮の住民は、製鉄所まで最短距離で二〇〇メートルほどのY村に住んでいる。住民が問題視しているのは、製鉄所からの騒音、煤塵・粉塵、悪臭である。宝山区や上海市の環境保護局は二〇〇七年、煤塵・粉塵などが製鉄所によるものだと認めたようだが、その翌年に出された住民の苦情に対しては、騒音の対策はすでになされ、粉塵の対策も今後なされるので、これ以上の問題はないとの姿勢を示したという。

調査で明らかになった健康障害

住民たちは各種の健康障害を訴えており、それらが製鉄所の公害によるものだとしている。その実態を明らかにするため、許さんは近隣住民を訪問して健康状態を調査し、結果をまとめている。調査が行われた地区は集合住宅からなっており、建物の入口と階段を共有する部屋の集まり（「門洞」）が二三ある。そのうち一〇の「門洞」に住む三一四人に聞き取りが行われた。その結果、四四人（三一四人中、一四％）に様々な健康障害がみられた。とくに各種の呼吸器症状が多く、また心臓病などの心血管系疾患もみられる。

また今回、筆者らも九人の住民から被害の訴えを聞くことができた（このうち六人は許さんの調査対象者にも含まれている）。その内容を表として掲げておく。

許さんや筆者らの調査により、少なくない住民が様々な健康障害を訴えていることが明らかになった。とくに心血管系・呼吸器系疾患は、大気汚染との関連が指摘されている。しかし筆者らは門外漢であるため、これらの健康障害がどの程度、製鉄所からの公害によるものか、判断を下すことはできない。今後は自然科学の研究者・専門家を含む学際的な調査を行い、因果関係の解明など、より綿密な調査を進めることがぜ

あおぞら財団訪問時の被害住民からの聞き取りの様子
（2008年９月６日）

表　住民９人からの聞き取りの概要

仮名、性別、年齢	聞き取りの内容
Aさん、女、65	かつて製鉄所第 1 期工程の用地となった地区に居住。1994 年、製鉄所を退職。96 年、現在の住まいに転居。2001 年から腎臓病（07 年から悪化）、07 年から肺小葉炎症。診断は、退職者も受けられる製鉄所の健診による。
Bさん、女、54	2004 年、吉林省から転居。07 年に高血圧、気管支炎。いちど病院に行ったことはあるが、現在は売薬で治療。診断書はない（血圧については居民委員会で測った記録がある）。
Cさん、男、69	2003 年、製鉄所を退職し、現在の住まいに転居。それまでは体調がよかったが、転居後、咽喉炎、鼻炎になる（高血圧はそれ以前から）。診断は製鉄所の健診による。喫煙により前からあった気管支炎も、07 年以降、悪化（病気を悪化させないよう1、2 年前から禁煙）。妻も 07 年に気管支炎を発症し、また最近、心臓の手術をした。
Dさん、女、69	1982 年、上海市虹口区から転居。幼稚園の園長を務める（96 年に退職）。2000 年から咳が多く、騒音でイライラするようになる。07 年、心臓の期外収縮と分かり、咽喉炎もひどくなった。診断は、宝山区教育局の退職教員向けの健診による。
Eさん、女、53	2005 年、盛橋から転居。06 年から体調悪化。08 年、「面頰炎」と医師により診断。また、医師の診断ではなく自分の感覚だが、咽喉炎、心臓の痛みがある。
Fさん、女、57	盛橋生まれ。1982年、月浦に転居。騒音による睡眠妨害や悪臭で、体調が悪化。2007年から咽喉炎、息苦しい〔気悶〕（咽喉炎は医療機関のカルテによる。「気悶」もカルテでは病名が書かれていたものの失念）。
Gさん、男、52	1983 年、製鉄所第 1 期工程の用地となった地区から転居。バス会社で働いており、修理工から現在は警備員。2009 年 2 月、勤務先の健診で、高血圧、心臓の期外収縮などと診断。
Hさん、男、58	2002 年、現在の住まいに転居。咽喉炎、気管支炎、高血圧。

（注）1. D、G さんの年齢は筆者らの聞き取り調査時（2009 年 9 月 23 日）、それ以外の方は許さんの調査時（2008 年 10 月）のもの。なお、H さんは許さん自身である。
2. Cさんの妻は、筆者らの聞き取り調査の場に同席したが、体調上の理由から発言はされず、夫であるCさんから間接的に状況を聞き取った。そのため、C さんの妻に関する聞き取りの結果も、C さんの欄に一括して記載した。
3. 表中、盛橋は月浦鎮内の地名である。
4. 表中、〔　〕は症状の原語を示す。「面頰炎」は、訳語等不明のため原語のままとした。
5. 聞き取りを行った 9 人のうち、男性 3 人は現在も喫煙しているか（G、H さん）、過去に喫煙歴があった（C さん）。しかし、他の女性 6 人には喫煙歴はない。
（出所）筆者らが 2009 年 9 月 23 日に行った聞き取り調査による（補足的に、許さんの調査結果、および 2009 年 2 月の訪問で得た知見も利用した）。

ひとも必要である。

（よけもと・まさふみ　東京経済大学教授、あいかわ・やすし　鳥取環境大学准教授）

（注）本稿の内容についてより詳しくは、除本・相川「上海市宝山区における製鉄所周辺の公害被害――周辺住民による被害の訴えに基づいて」『東京経大学会誌』二六五号、二〇一〇年（東京経済大学ホームページより閲覧可）。

環境フォーラムで子供たちと発表

２月７日、環境省・国交省・経産省・あおぞら財団主催の「環境フォーラム近畿地域におけるCO２削減に向けた取り組み―西淀川からコミュニティ資源循環圏の発信　廃食油を中心にCO_2削減にみんなができることを考えよう―」をエルモ西淀川で開催し、150名ほどの方が参加しました。

サブ会場では、紙芝居の読み聞かせ、手回し発電体験、廃油キャンドルづくり、エコバッグお絵かきなどの催しを行い、メイン会場で、環境問題に対する取組についての報告やディスカッションを行いました。

私は、西淀川ＥＳＤの一員としてこれに参加し、子供たち（西淀川高校、淀中学校、ガールスカウト26団）と一緒に、菜の花プロジェクトの活動を報告しました。

取り組みの中心となって活動してきた子供たちが、それぞれの世代、視点から学び感じたことなどを発表しました。

会場には報道カメラも設置されており、みんなとっても緊張していたようですが、最後まで堂々と報告しました。

森井隆二（大阪経済大学経済学部）

活動への参加をお願いする子どもたち

中国からの手紙「你好」は休みます。

ほっとニュース

中学生の職場体験実習を受入

西淀川区内の歌島中学校（2／17～18、4人）と、西淀中学校（2／23～25、4人）の職場体験実習を受け入れました。生徒に志望動機を聞くと、小学生の時に天野憲一郎先生（西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会）の西淀川公害の授業を受け「あおぞら財団」に興味を持ったことで、を理由にあげる生徒がいました。他の生徒も「環境問題に取り組んでみたかったので、身近なところから見てみたかった」「NPOを体験してみたかった」と答える等、関心の高さを示しました。

姫里小学校で行われた西淀川公害授業のレポート作成やイベントチラシ作成等を依頼しましたが、どの生徒も一生懸命に取り組んでいました。

後日、届いた中学生の職場体験の感想文には「『公害』の文字を無くせるように、みんなが公害への関心を深めて、そこから何かを感じ取ってほしいと思います。」と記していました。

環境フロンティア講座が始まりました

2010年1月から3月にかけて環境問題に関わるNPOで働いている人や行政の職員を対象に、第1期環境フロンティア講座（4回連続講座）を行いました。環境問題を中心に取り組んでおられる先生方に、なぜ環境問題に取り組むようになったのか、また取り組むことの意味などを語っていただきました。各回30名前後の参加で、「毎回違った視点から話を聞くことができて良かった」「もっと長く聞きたい」と、好評でした。6月からは第2期が始まります。皆さんぜひご参加ください。

評議員会、理事会を開催

2010年度事業計画と予算を決める第25回評議員会（3月8日）と第34回通常理事会（3月20日）を、大阪・西淀川区のあおぞら会館で相次いで開催しました。会議では、事業計画案と予算書案を審議するとともに、第4次事業計画案（2010年度から3カ年）について意見交換しました。

リレーエッセー

傾聴ボランティア

小坂　茂樹

この言葉を知ったのは今年に入ってからだと思います。実は私、ヘルパー二級の資格を4年前に取得し、少しその仕事に関わっているのですが、年寄りの男性の活躍する場が少なく、何かないかなと探していたところ、目についたのがこの〝傾聴ボランティア〟でした。

調べてみると元の言葉は〝シニア・ピア・カウンセリング〟といい30年程前、アメリカのカリフォルニア州の診療所で始まったのが最初で、高齢者の健康は肉体だけではなく、その心の悩みが大きく影響していることが分かりその悩みを聞くことから始まりました。このピアという言葉は仲間、同士という意味を持っていて、共通の社会的経験をもつ同世代の者が、相手の嘆き、悩みを聞くことによって相手の心の不安を軽減し、かつその人なりの判断や納得を促すことにあると書いてあったのを読み、この年寄りにはもってこいの仕事だと思い、養成講座がないかと探していたところ新聞に載っているのを見つけたので受けにいった次第です。当初、机の上の勉強かなと思って行ったわけですが、3時間余り、すべてロールプレイングによる講座でした。

相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添い、相手の話しを受け止め、相手がさらに多くのことを話せるように聴くだけで、より話し手が悩んでいることを整理がつくように支援することをふまえてする傾聴は、座学ではなく実践学であること、資格より資質の大事さを学びました。おこがましいのですが私に合っているような気がします。

あおぞら財団には、あおぞらを次世代に残してもらうことと、地域での人と人のつながりが密になる町づくりをしてもらって傾聴ボランティアなどいらない社会づくりを目指して貰いたいものです。

（ことさか・しげき　あおぞら財団ボランティア）

*このコーナーでは、あおぞら財団で一緒に活動するスタッフの近況報告をかねた一言を紹介します。

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会
（日本野鳥の会大阪支部との共催）
日時　6月5日（土）午前9時30分～午後11時30分頃
集合　阪神電車なんば線「福」駅改札口　午前9時30分
場所　矢倉緑地公園

あおぞら財団「ボランティアの日」
日時　6月4日（金）
場所　あおぞら財団事務所内（例外あり）
時間　午前9時30分～午後5時30分（応相談）

お礼

（2010年2月・3月　敬称略）

●寄附・寄贈者
浅井真二、天野憲一郎、安藤聡彦、池内みさ子、井関嵩博、伊東千秋、井上善雄、植田和弘、遠州尋美、大阪いずみ市民生活協同組合、大阪から公害をなくす会、㈲大阪ファルマプラン、奥村昌裕、傘木宏夫、金谷邦夫、金原功、川崎美栄子、川野素裕、蔵本幸治、グリーンコリア、公害環境測定研究会、㈱神戸製鋼所法務部、神戸大学倫理創成プロジェクト、国際協力NGOセンター、埼玉県立総合教育センター、齋藤寛、酒井健一、進士五十八、水都大阪2009実行委員会事務局、相思社、外山広美、田中佳世、田中洋子、寺西俊一、徳本有紀、友澤悠季、中村昌史、日本都市計画学会、日本都市計画学会関西支部・広報委員会、野田阪神駅前地区ゆったり歩けるみちづくり協議会、畑明郎、平尾麻里子、福本富男、防災科学技術研究所、北摂運輸協議会、益田地域温暖化防止推進の会、真智富子、松岡資明、箕面市立豊川小学校、宮本憲一、向井嘉之、村田千鶴、村松昭夫、山川昭次、山本元

●お助けボランティア参加者
浅井真二、池田風弥、小坂茂樹

事務局日誌

2月

1日（月）　将来構想検討会
2日（火）　事務局会議
　　JICA研修受入れ
3日（水）　広報会議
　　ECOまちネットワーク・よどがわ編集会議
4日（木）　第18回西淀川ESD会議
　　あおぞらプロジェクト事務局団体会議
6日（土）　第103回矢倉海岸定例探鳥会
7日（日）　環境フォーラム
8日（月）　資料館定例会議
9日（火）　事務局会議
　　環境省視察受入れ
10日（水）　環境省視察受入れ
　　ECOまちネットワーク・よどがわ会議
12日（金）　西淀中学校職場体験事前訪問
　　神戸シルバーカレッジフードマイレージ
14日（日）　緑陰道路サロン第8回『元庄屋さん宅に残る「中島大水道の古文書」から』
15日（月）　東大阪市・平成21年度地域まちづくり活動助成金審査会（藤江）
16日（火）　事務局会議
　　常務会
17日（水）　歌島中学校職場体験受入れ（～18日）
　　自転車文化タウンづくりの会幹事会
18日（木）　せっけん教室
　　環境フロンティア講座
19日（金）　西淀川公害患者と家族の会役員会（参加）
　　あおぞらプロジェクト事務局団体会議
20日（土）　ECOまちネットワーク・よどがわ総会（参加）
21日（日）　開発教育セミナー（講師:林）
22日（月）　矢祭町青年会議所青年部視察受入
　　尼崎道路連絡会(参加)
23日（火）　西淀中学校職場体験受入れ（～25日）
　　事務局会議
25日（木）　第19回西淀川ESD会議
　　大阪府地球温暖化防止活動推進センターOJT研修（講師:林）
26日（金）　新規職員面接試験
　　尼崎市立地域研究史料館調査
28日（日）　交野市環境展（展示、ワークショップ）

3月

1日（月）　堺泉北菜の花プロジェクト見学受入
2日（火）　広報会議
3日（水）　事務局会議
　　あおぞらプロジェクト事務局団体会議
4日（木）　環境フロンティア講座
5日（金）　スタディツアー統括会議
7日（日）　よどっこ保育園お披露目
8日（月）　評議員会
　　事務局会議
9日（火）　呼吸リハビリ講習会（水島）
10日（水）　資料館定例会議
　　ぜん息被害者の救済を求める西淀川の会準備会打ち合わせ
　　ECOまちネットワーク・よどがわ会議
11日（木）　徳島市環境講座（講師:藤江）
12日（金）　資料館スタッフ会議
　　大気汚染と裁判ホームページ製作業務第1回検討委員会
15日（月）　JICA中国研修受入れ
　　日中の公害・環境問題を考える学生セミナー
　　国際交流ワーキング会議
　　子どもの参画べんきょう会
16日（火）　事務局会議
　　新公益法人制度に関する説明会（参加）
17日（水）　あおぞらプロジェクト幹事会
19日（金）　第30回フードマイレージ教材化研究会
　　大阪市地域福祉活動推進委員会（藤江）
20日（土）　将来構想委員会
　　理事会
　　あおぞら財団会員のつどい2010～地域で取り組む環境学習～
21日（日）　環境教育関東ミーティング（～22日、参加）
23日（火）　事務局会議
24日（水）　四日市スタディツアー参加
　　アイスト倶楽部会合
　　ぜん息被害者の救済を求める西淀川の会準備会打ち合わせ
26日（金）　第4回エコミューズ運営協議会
27日（土）　東大阪市・平成21年度地域まちづくり活動助成金活動成果発表会（藤江）
28日（日）　きんき環境館のパートナーシップ団体交流会（参加）
29日（月）　第20回西淀川ESD会議
30日（火）　事務局会議
　　ぜん息被害者の救済を求める西淀川の集い
　　西淀川高校草取り

【編集後記】　一見すると同じに見えても違うものである事はよくあります。タンポポもその一つです。きっと「タンポポをイメージしてください」と言われると、みんな同じ花を思い描くと思います。でも、タンポポにも違いがあります。西淀川周辺にはカンサイタンポポとセイヨウタンポポが自生しています。

これらのタンポポの見分け方をご存知でしょうか。簡単に説明すると、花の一番外にあるガクのようなもの（総苞外片）がまっすぐ上を向いていたらカンサイタンポポ、反り返って下を向いていたらセイヨウタンポポである事が多いそうです。この見分け方を知ってから、道端にタンポポを見つけるとつい観察してしまうクセがついてしまいました。みなさんも一度タンポポをじっくり見てみてはいかがでしょうか。（K）

『Libella』No.114　2010年5月号（隔月1日、年6回発行）
発行所　（財）公害地域再生センター（あおぞら財団）
編集人　上田敏幸
大阪市西淀川区千舟１－１－１　あおぞらビル４階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
http://www.aozora.or.jp/
E-Mail webmaster@aozora.or.jp
印刷所　あゆみコーポレーション
定　価　一部４００円（郵送料込み）
会員の購読料は会費に含まれています。
郵便振替口座　00960-9-124893（加入者名　あおぞら財団）
乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。

Bohchu Ippitsu
一忙筆中

つちはし　なりとし
土橋 成敏

1964年和歌山県和歌山市生まれ。近畿大学法学部法律学科卒。総務庁（現総務省）入省。平成20年4月から環境省近畿地方環境事務所。二男のシングルパパ。

楽しみながら環境問題をいっしょに考えて行動できる、あったかい交流の場

この2年間、総務省から出向し、実家和歌山から環境省近畿地方環境事務所に勤務しています。

担当は、環境教育（ＥＳＤや各種研修企画を含む）、中間支援組織である「きんき環境館」の運営などをとおした市民活動支援です。（それ以前の環境省との関わりは、以前東京で勤務していた時、愛車がディーゼル規制の対象となり、その内容を確認にいった時くらいでした。いまでも、ＮＯＸ低減装置を付けてその車をメンテしながら乗っています。）

あおぞら財団との出会い

あおぞら財団との接点は、ＥＳＤ委託事業の最終年の平成20年度からメンバーとして、毎月開かれる西淀川全体会議やワークショップに出席してきたことです。そこで見たものは、地域の低学年の小学生から大学生・大人までが集まり、「楽しみ」ながら環境問題に触れ、「いっしょに考え」、その改善に向け「行動している」様でした。私自身の育った中でも経験したことない異年齢が交流しているあったかい場です。

翌年の21年度には、この場での取り組みのひとつである『西淀川菜の花プロジェクト』を持続していくため、国土交通省の予算を活用し、廃食油回収拠点の拡大、これから継続的に活動するためのツール（回収拠点周知のためのノボリ、環境教育用の紙芝居、廃油回収セットなど）を作成しました。その結果、21年度末には西淀川区周辺で、廃油回収拠点は16か所となり、今年度、一層の広がりをどうすればできるかを模索しているところです。

後輩の姿に感動

先日、母校の和歌山県立向陽高校が、46年ぶりに「21世紀枠」で甲子園出場を果たし、1回戦を突破しました。まだ記憶に新しい、敗戦した監督から「末代までの恥」との暴言を吐かれた高校です。僅か2試合でしたが、このことなど気にせず、大舞台で強豪チームに果敢に立ち向かっていく選手をみて大きな力を貰いました。わが子の活躍をみるような気持ちでひやひやしながら応援し、初心に戻れた気がしました。

親子の絆づくりに活用

わが家には今度中学2年と小学校2年になる男の子供がいます。6つも年齢差があるため、どちらも一人っ子という感じが未だに抜けきれません。今後、反抗期など難しい年頃を迎えることになると思いますが、人にも環境にも気を遣える人になってほしいと、西淀川の取り組みなど「環境問題」を介して、折に触れ話しているところです。今年は、西淀川の廃食油から精製したバイオディーゼル燃料を愛車に入れ、キャンプにでも連れて行って一緒に自然に触れようかと思っています。